

学校関係者評価内容

学校名: 小倉リハビリテーション学院 理学療法学科(昼間コース・夜間コース)作業療法学科(昼間コース)

評価実施日:平成30年3月28日

大項目	評価項目		自己評価平均		自己点検・自己評価総括	総合評価	学校関係者評価内容	関係者評価後の学校側の考察・対策
			理学	作業				
教育理念 人材育成像	I-1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか	3.3	2.9	学院の理念・目的・人材育成像は募集要項・学生便覧・シラバスなどに明確に謳っている。しかし、学院内での周知が不十分であり、また学生・保護者などへの周知も不十分であった。教室や教員室に掲示する、保護者説明会などで理解を得るように話していくなど、更なる改善を行い周知徹底に努める。	3.6	学院の理念、学院全体の教育目標、求める人材育成像は明確である。各学科の教育目標も学院理念等と連動しながら設定できている。周知方法などに更なる工夫が必要である。	学校理念などをわかりやすく学内掲示していくことで、学生への周知を図っていく。また、教室内にもクラス目標などを掲示し、目的に沿った行動をとることができるように促していく。
	I-2	学校の理念・目的・人材育成像・特色などが学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか (*関係業界とは高校、病院、実習施設等)	2.8	2.6				
	I-3	各学科の教育目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	2.8				
学校運営	II-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.1	2.8	学院運営は事業計画に基づき、法人理事会で承認を得ている。その運営方針は学院運営会議、部長主任会議、学科会議、委員会会議などで、方針などの伝達・意思決定がなされている。また、意思決定機構は組織図などを作成し明確化されている。業務のシステム化は学事システムなどを導入しているも、アナログが多く不十分であり、効率化が図られているとは言えない。情報システムを有効に活用し、業務の効率化を図っていくように努める。	3.4	事業計画に基づいた学院運営がなされている。運営方針の決定機構も明確に示されている。業務のシステム化も行われているが、有効活用ができていないなど改善点が見られる。	今後も定期的に会議を開催していくため、意思決定の流れを明確にしていく。これによりスムーズな情報共有及び業務の効率化を図っていく。また平成30年度は学内WiFi環境を整備、タブレット端末を導入。クラウドサーバ、業務管理ソフトなど情報収集し、業務効率化のための環境整備を行っていく。また、既存の教務システムについても有効活用できるよう情報整理し発信していく。
	II-2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	3	2.9				
	II-3	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.6	2.1				
教育活動	III-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.9	3.0	学校法人全体で教育課程編成を行い実施されている。授業評価に関しては、前後期での学生による授業評価、教員間での授業評価を実施している。しかし、結果を踏まえての改善計画や教員間での授業評価頻度が少ないため、次年度以降の改善が必要である。	3.2	法人全体で教育課程編成を検討し、随時見直しを行っている。教育方法向上のための研修開催や積極的な研修会への参加があり、教育活動は問題ない。学生による授業評価や教員間の授業評価も実施できている。今後は、授業評価を反映させ、改善策を作成する。	復習を行うことが出来ていない学生が多いという授業評価結果を受け、復習を行う習慣づけを持たせるための環境づくり(ICT)を行う。また、教員間授業評価も計画的に実施していく。
	III-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.8	2.8				
	III-3	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.3	3.1				
	III-4	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.9	2.7				
	III-5	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.9	2.3				
学修成果	IV-1	就職率の向上が図られているか	3.4	3.3	入学時より担任・副担任制を設け、面談やホームルーム・セミナーなどを通して学習面・生活面の支援を行っている。結果、進級率は向上し退学率は低減できている。作業療法士への求人状況は良好であり、3年次での就職セミナー、就職説明会、面接・履歴書作成練習へのかわりなどを行ってきた。また、実習終了前からの働きかけを行うことで、就職内定率・早期就職内定は向上している。	3.4	就職率改善への取組み、国家試験合格への取組み、退学率低減への取組みは実施されている。結果もできている。	引き続き、国家試験対策委員会を中心に早期からの計画分析を行っていく。学生支援により退学率の低減をさらに図っていく。
	IV-2	国家試験合格率が良好であるか	2.7	2.6				
	IV-3	退学率の低減が図られているか	3.1	2.9				
	IV-4	在校生の社会的な活躍を把握しているか	2.5	2.1				
学生支援	V-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.1	3.0	入学時より担任・副担任制を設け、面談やホームルーム・セミナーなどを通して学習面・生活面の支援を行っている。また、スクールカウンセラーを導入しており、学習面・生活面での不安を話せる環境を整えている。保護者に対しては、保護者オリエンテーションを実施し、現状を伝える機会を設けている。また、遅刻・欠席など学内生活に不安のある学生に対しては、保護者に連絡を取り面談などを定期的にも実施している。高校などとの連携は、一部の教員・一部の学校に留まっているため、更なる高校への働きかけが必要と思われる。	3.8	学生支援体制は整っている。保護者との連携も適切にとれている。今後は、高校との連携方法を検討。	企業との連携を図りながら、さらなる情報収集に努め学生の希望に合った就職が行えるようにしていく。今年度より学年主任を設け、より厚い学生対応が行えるようにしていく。高校との連携に関して、ガイダンス等を通し昨年以上に高校側への情報提供を図っていく。
	V-2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.1	3.2				
	V-3	保護者と適切に連携しているか	3.1	3.1				
	V-4	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.6	2.3				
	V-5	修学支援体制が整っているか	3.2	3.1				
教育環境	VI-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.5	2.0	教育施設・設備は定められた基準に適合しており、定期的に点検も行っている。開校14年を迎え設備面での劣化、数量不備が散在している。順次修復、改善しているが、次年度以降への継続的改善が必要である。臨床実習に関しては、実習期間中週2・3回の訪問を実施することで、迅速に学生情報の共有化が図れ、実習における学生支援が十分に行える環境にある。しかし、分野の偏りがあり、精神科分野での実習継続方法など、今後の課題である。防災に関しては、防災組織を作成している。実施回数・内容に偏りがあるため、今後改善努力が必要である。	3.4	法的に決められている設備は整っており問題はない。実習施設との連携がとれており、教育体制は整備されている。	学内設備改善や備品の補充などを必要に応じて実施していく。
	VI-2	学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか	2.9	2.2				
	VI-3	防災に対する体制は整備されているか	2.8	2.4				
学生募集	VII-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	3.2	3.0	卒業後の取得資格・求人状況などについて、ホームページやパンフレットに掲載している。また、オープンキャンパスなどでも明確に説明している。高校などには、説明会、訪問などの機会を通して同様に説明している。その結果、入学希望者・保護者・高校等に理解を得られている。	3.8	学生募集に対する計画、努力はみられる。	ホームページのリニューアルを行い、引き続き高校生等が知りたい情報発信に努める。
	VII-2	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.1	3.3				
財務	VIII-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.9	2.4	事業計画に基づいて事業は行われている。しかし、学生募集が低減している状況であり、引き続き対策が必要である。	3.5	問題はない	定期的に見直しを行いながら安定した財務としていく。
	VIII-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.9	2.4				
	VIII-3	財務について会計監査が適正に行われているか	3	3.1				
法令遵守	IX-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.4	3.1	法令・設置基準等を常に遵守し適正な運営がなされている。個人情報保護に関しては、教員・学生ともに取り決めを説明し、書面での約束を取り交わしている。また、入学時、臨床実習前にはSNSの取り扱いなどの教育機会を設けている。問題は起こっていない。	4	問題はない	今後も法令遵守しながら運営を行っていく。
	IX-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3	2.9				
社会貢献 地域貢献	X-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.9	2.4	学院施設は、県士会やリハビリテーション施設が主催する研修会に活用されている。高齢者施設等でのボランティア活動を年間を通して学生に促しており、参加状況も良好である。また、地域公民館で開催される健康教室に、学生企画での参加を毎年行っている。	3.8	社会貢献等促しは行われている。取組みとして問題はない。	引き続き学生にボランティア活動を促していき、地域貢献できる人材育成をしていく。また、学校としても同様に施設を開放し地域貢献していく。
	X-2	学生のボランティア活動を奨励しているか	2.9	2.7				